



広島大学でのサバティカル研修（2021年4月~2022年3月）について、報告をした。サバティカル研修の目的は、報告者の専門である農村社会学をベースとしながら、「地域課題解決における村落対応についての比較研究」をすることであり、広島に居住することによって、自らの生活を通して、西と東の農村の比較をする視点を摂取することであった。コロナ禍という事もあり、研修前半は、身動きが取れない状況ではあったが、後半は西の地域で盛んに形成されている「地域運営組織」について、行政各部署および地域住民への調査を行うことが出来た。結論として得られた視点は、西の農村と東の農村の「違い」というのは、生産構造による協力体制の違いであり、人の流動性が早い時期から生じている西においては、協力の線の形成や枠組みの形成が、柔軟に展開されていることが予測された（が、この点は今後の研究課題）。

こういった視点を摂取できた背景には、コロナ禍で地域調査が出来なかった前半の時間で、農村社会学の古典に十分に触れることのできる時間があったという点があげられる。そういった意味で、サバティカル研修において、「時間」が得られた事により、これまでの研究とこれからの研究の接点を捉えることができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来た。サバティカル研修の機会を頂けたことに、感謝いたすとともに、ぜひ、多くの方々にも研修を受けて頂きたいと思います。

第4回 2月15日(水) 3限(13:00~14:30)

・庄司知恵子先生

報告テーマ「サバティカル研修の報告―農村社会学における西と東の違いを求めて」

*別紙資料参照

・小澤 昭彦先生

報告テーマ「障害のある従業員に対する職場での配慮における事業主の意思決定

―マルチレベルモデルによる追試―」

第5回 3月10日(金) 3限(13:00~14:00)

・菅野道生先生

報告テーマ「中山間地域における、コミュニティ内部・外部の資源を活用した地域の生活

支援ニーズ・シーズのマッチングシステムの構築」